

・みんなが幸せであるために

《中学生の部 金賞》

大塚中学校二年 鈴木 貫太

広島は世界的に見ても平和で注目されている都市だと思う。そのため僕は、広島で平和的で誰も置き去りにしない社会をつくっていきたいと思っている。

近年、中学生が自殺をしたというニュースをよく耳にする。SNSによるひぼう中傷や普段の学校生活でのいじめなど原因は様々だ。更に、保健の授業では中学生の死因の三位が自殺だと習った。このことを聞き、僕は自殺してしまった人がとても多いことへの驚きと僕はSNSを正しく利用することができているか、また、学校生活などで相手がいやがるようなことをしてしまっていないか、など自分を改めて見直すきっかけとなった。

自殺の件数を減らしていくには、中学生だけではなく大人から子どもまで一人一人が言動と行動に責任を持つことが大切だと思う。こうして一人一人の意識を変えていき、みんなで互いを思いやることが、平和的で誰も置き去りにしない社会をつくることにつながると思う。そのために僕は、相手を思っただけでできる広い心をもとうと思う。

「ヒロシマ」だからこそ

《中学生の部 銀賞》

中広中学校三年 和田 妃愛

差別や偏見がなく、誰もが「このまちに住み続けたい」と思えるまち。そんなまちに、私はしたいと思う。

私たちの住む広島市は、「平和都市ヒロシマ」として、世界に平和を発信している。私は、この「ヒロシマ」だからこそ、できることがあると思う。それは、差別や偏見をなくすことだ。かつて「ヒロシマ」を生きた人たちは、原子爆弾が投下された後、差別や偏見に苦しんできた。その事実をうけつぎ、今の「ヒロシマ」を生きる私たちにこそ、差別や偏見をなくしていけると思う。今も、ジェンダー差別など、世界はたくさんさんの差別や偏見であふれている。だからこそ、まずは「ヒロシマ」から、差別や偏見をなくしていくべきだ。

では、私たち中学生にできることは何だろう。それは、原子爆弾投下による差別や偏見に苦しんだ人たちのことを知ることだと思う。それが、この先の未来、差別や偏見がなく、「このまちに住み続けたい」と誰もが思える広島市を築く、第一歩になるだろう。

一人一人が尊重しあえる町に

《中学生の部 銅賞》

安西中学校三年 石田 雨愛

私は、私たちの住んでいる広島市が将来人種や性別、個性関係なく住みやすい町になったらいなと思います。

理由は自閉症を持った妹の存在です。妹は私の一つ下で自閉症の中でも情緒の障害を持っています。妹は一人で学校に行けなかったり、お店に行って買い物をする事など、私にとって簡単なことができません。そのため妹が小学生のときに友達に莫迦にされて塞ぎ込んでしまいました。ですが妹は変わろうと頑張っています。莫迦にしてきた子たちのことを個性として理解しようと努力しています。私はその姿を見て妹が理解しようとしているように沢山の人が妹のような子を理解できるような世界になって欲しいと思いました。障害を持つていなかったとしても、一人一人がおたがいを尊重していけるような世界になって欲しいと私は思います。そのために私は妹のような子たちが居るんだということをいろんな人に知ってもらえるようにまずは友だちから伝えていきたいと思っています。

心温まる広島

《中学生の部 銅賞》

翠町中学校三年 山下 健太朗

この前、電車に乗っているとき、心温まる出来事があった。横断歩道を渡っているおばあさんのカートが、電車の走るレールにはさまって、おばあさんが困っていた。それを見た車掌さんが、すぐにおばあさんのところに駆け付け、カートをレールから外し、おばあさんを助けた。車掌さんが電車に戻ってくると、車内から拍手が起こった。車掌さんは乗客に一礼した。私はこの出来事に人のぬくもりを感じた。

これからの時代、いろいろなものの機械化が進むと思う。接客などもロボットがするようになるかもしれない。すると、人と人との関わりはどんどん減っていくと思う。しかし、私は、これからずっと心温まる広島であってほしい。そのためには、人との関わりを大事にして、今までどおり思いやりの心をもって、生きていくことが大切だと思う。

人と人々が助け合い共存する、温かい広島をつくっていききたい。

SDGsと築く 広島未来

《中学生の部 入選》

三入中学校二年 蝶野 珠実

美しい自然や、楽しい友達、地域の方のやさしい笑顔。私は、こんな温かい広島
の町が好きです。しかし、広島町には原子爆弾が投下されたという悲しい過去
もあります。

過去の悲劇から、SDGsの目標の一つ、「平和と公正をすべての人に」へとつ
なげていくことは広島で生まれた私たちだからこそできることです。私は、SDG
sの目標を掲げて、思いやりのあふれる、より良い広島にしたいと思います。

そのためには、相手の立場になって考え、認め合うことが不可欠だと考えます。
それが、平和な世界への第一歩になると同時に、広島町をより明るく思う
のです。一人一人の意識から、思いやりの輪を広げて、平和の尊さを広島から世界
へと発信していきたいとです。

SDGsの目標をすぐに達成することは難しいことかもしれませんが、広
島から平和への思いを発信し、目標の達成に近づくことはできます。私は、過去か
ら学び、より良い広島を築いていきたいと思っています。

一人一人 グラデーション

《中学生の部 入選》

二葉中学校 生徒

「そうなんだ。」

私の口から出た言葉はこれだった。

中学生になって多くの友達ができいく中、ある一人の女の子の友達は恋愛的に好きな女の子がいる、と教えてくれた。私はそれに対して珍しいなとは思ったが特に何も感じなかった。その子はそれを言ったことで侮辱的な言葉を受けたことがあるらしく、私はそれがあってもいいことなのか疑問を持ち、そのような人達のことや日本の現状について調べた。

そのような人達——LGBTへの対応についていくつもの課題があるのが今の日本の現状のようだ。例えば同性婚および同性パートナーが認められていなかったり、学校でLGBTであることを打ち明けた生徒が差別的な言葉を受け、自尊心を傷つけられることも少なくなかったりする。

これらのことから私は、周りの人達がLGBTを理解し、受けとめなければならぬ。また、主張する側も他者への感謝を忘れてはいけなないと私は思う。なので、お互いを尊重し、認め合える広島になってほしい。

笑顔とびかう広島

《中学生の部 入選》

瀬野川中学校二年 中川 友里

私は笑顔でいると、なんだか幸せな気持ちになれる。そんな笑顔をこの町にも広げていきたい。

「ありがとう」私の好きな言葉だ。この言葉を聞くと、心が温まり自然と笑顔になる。「ありがとう」は例えばどんなときに言うだろう。人に親切にしてもらったとき、何か助けてもらったとき。「ありがとう」の言葉は、人を笑顔にする。だから私は日頃から、感謝の言葉を心にかけている。

そんなときふと小学生の頃の担任の先生が言っていたことを思い出した。「裏で支える人になれ。」その時、私はこの言葉の意味がよくわからなかった。でも、今はわかる気がする。裏で支えてくれる人がいるから、がんばれる人がいる、笑顔になれる人がいる。

裏で支える人に、私はなりたいと思った。そして、自分のことを裏で支えてくれる人たちにもっとありがとうを伝えたいと思った。最初は自分のまわりから、そして、どんどん輪を広げ、広島が笑顔でいっぱいになったらいいと思う。

未来も緑を

《中学生の部 入選》

瀬野川中学校一年 竹宮 未菜海

『緑に包まれた県・広島』このフレーズはいつも私の頭の引き出しの中にしまっている。

少し前に家族で「ドラえもん」の映画を見た。その時ふとこう思った。「やつぱり未来の町はステキだなあ。広島もこういう町になっていくのかなあ。」でも見た映画には何かが足りなかった。考えてみた。頭の中の引き出しが開いた。「そうだ。緑だ。」あの「ドラえもん」の未来の町には緑がもっと必要なんだ。緑が増えようと、もっとよい町になるんじゃないか。

今の広島は、私が思い描いている『緑に包まれた県』だ。十年後はどうだろう。先日の新聞に十年以内に大きなビルを三つ建てるという記事が載っていた。そうすると自然にも影響が出てしまうのではないか。森林伐採や埋め立てなどで緑を壊すことになるのではないか。広島を町を発展させることはよいことだ。だが、自然を大切にすることも大事だ。

私達は町の発展と自然のバランスを保ちながら、広島をつくっていかなくてはならないのだ。

人との関わり

《中学生の部 入選》

祇園中学校一年 家村 美南

私は、人との関わりを大切に作る広島が良いと思います。

人との関わりを大切にするとは、例えば家族や友達同士であいさつをしたり、仲良く協力したり、人のことを考えて行動したりすることです。それは、平和にもつながります。思いやりをもった行動だからです。私も朝、おはよう、と人とあいさつをしたら、気持ちが良いです。あいさつは、相手の存在を認めてからのことだから、ありのままの相手を受け入れる優しさにもなっていくのかなと思いました。また、仲良く力を合わせることは、争いが起きていない身近な平和のことだと思います。それから、人のことを考えて行動すること、自分だったらどういう気持ちか想像したり、経験から考えてみたりすると、すぐにできました。

私は、この思いやりのあるすてきな今の広島を、なくしてはいけなと思います。十年後も二十年後も続いたら、平和記念式典で平和を世界に発信するみたいに広がっていくはずです。だから私も頑張ります。

未来につながる福祉

《中学生の部 入選》

安佐中学校一年 宮木 那帆

私は広島が安心して老後をむかえられるまちになったらいいと思います。

その理由は、通えない、お金がないといった理由で福祉を受けられない人がいることや福祉の仕事をする人が減っていることなどの福祉の現状に不平等だと感じて目を向けることが大切なのではないかと思ったからです。

そのためには、福祉の仕事の大変さや重要性を広めることが現状を解決するため Needed と思います。例えば、福祉の仕事の大変さを広めることで福祉の仕事への支援がでたり重要性を知ることによって福祉の仕事をする人が増えるということが考えられます。福祉の仕事の重要性が広まることは、各地に施設が建って通いやすくなる、支援金が出るなど福祉を受ける人にも大切なことです。

福祉を受ける人が受けやすい環境づくりをすることや福祉をする人にとって充実したお給料を見直すことといった政治を進めていくことで、SDGsの三つ目の目標である「すべての人に医療と福祉を」に大きく近づけるのではないのでしょうか。

未来の広島のためにできること

《中学生の部 入選》

宇品中学校二年 福本 沙織

私が願う十年後、二十年後の広島は、ごみが減って海や川がきれいになることだ。プラスチックやビニール袋、空き缶などのごみがなくなったら海がきれいになり、ごみをエサと間違えて食べてしまう生き物も減ると思う。今はビニール袋の有料化やストローを紙にするなどの政策が行われているが、ほかにもできことがあるのではないだろうか。カップラーメンのフタ止めのシールを廃止することで約三十三トンものごみが減るというニュースを見た。こんなささいなことでごみが減るのであれば、個人個人が少し気をつけるだけでもっと変わらと思う。自分の行動を振り返ってみると、物を大切にする意識が低かったことに気がついた。使えなくなったりサイズが合わなくなった物や服をすぐに捨てていたが、これらを工夫して違う用途で使ったり、他の人にゆずったりすることで少しでもごみが減ると思う。このSDGsをきっかけに、自分も今後できることをやっていきたい。

世界に平和を届けるために

《中学生の部 入選》

宇品中学校二年 浦井 侑

私は、将来「平和の代表」となるような広島にしたいです。

今、二〇二一年でも広島は世界の平和を願っています。ですが、実際それは叶っていません。今でも世界では核兵器が造られたり、争いがたくさん起こっています。もしかすると、日本でも起こっていることかもしれません。それと同時に、たくさんの人が苦しんだり、悲しんだりしています。ですが、私は一度原爆というものを経験している広島だからこそ、世界を平和にする発信源になることができると思います。争いや戦争の苦しさ、人の命の尊さを広島はよく分かっているはずです。そして、それを世界に届けられるのは、私達広島県民です。

私達子供に出来ることは限られています。ですが、私達子供でも広島を団結させることは出来ます。たくさんの人に呼びかければ、平和につながり、世界の平和にもつながると思います。

広島から世界に平和を届けられるように、私は少しでも出来ることをしていきます。

人の声が聞こえる広島

《中学生の部 入選》

戸坂中学校二年 浅野 絢美

「こんにちは」

何げない挨拶が溢れる広島が未来にあつたら、私はとても嬉しいです。

私は、挨拶をして返してもらえると、とても嬉しい一方、返してもらえないと、聞こえなかったかなと思う中で少し気が沈んでしまいます。なので、挨拶をする時に迷ってしまう時もあります。でも、大きな声で丁寧におじぎをして挨拶してくださる方に出会えると、気分がパアッと晴れ、気づけば笑顔になっている気がして、私もそうなりたいと思います。

このように、挨拶でとても元気をもらえるとと思うし、人との交流につながるものだと思います。最近では、レストランなどでロボットが物を運んだり、スーパードでの無人化等が導入されてきていて、私が大人になる頃には店員さんの居るお店は減少していると思います。それでも、働き方の改革につながり良いと思うけれど、私は時に、「いらつしやいませ」と元気な声が聞こえるお店に行きたくなります。

私が未来にあつてほしい広島は、あいさつが溢れ、人との交流が深く、助け合える広島で、私も行動に移していきたいです。

皆が使える魔法の言葉

《中学生の部 入選》

口田中学校二年 浅井 栞菜

私は、皆が挨拶のできる広島になったらいいなと思います。挨拶なんて当たり前、と思う人もいるかもしれません。だけど、挨拶というものはするだけで気持ちが良くなるし、されたら嬉しくなる魔法の言葉だと思います。私も何度かそう思う経験がありました。友達と喧嘩して、モヤモヤした気持ちでいた朝に「おはよう。」と声をかけられるだけで、喧嘩なんてなかったみたいに仲直りできたり、近所のおじいさんに「おはようございます。」と声をかけたら、「挨拶ができて偉いね。」と褒められたり。皆が当たり前だと思うことは、皆が大切に行っている証拠だし、皆が当たり前だと思っていることは、誰かの心に優しい気持ちを生んでいます。だからこの世界から挨拶は消えないのだと思います。最近よく聞くSDGsにも「住み続けられるまちづくりを」という目標があります。私は、挨拶という交流すらない、優しい気持ちのない街ではなくみんなが当たり前を当たり前にできるような皆が住みやすいあたたかい街を、未来を担う若者として、作っていききたいと思います。

思いやりのある広島

《中学生の部 入選》

二葉中学校二年 松田 佳恋

私は、誰もが幸せに過ごせる平和な広島がいいな、と思います。

私はそれを達成するために、お互いが思いやりの気持ちを持つて行動することが大切だと考えます。私は以前このような経験をしました。友達と一緒に下校していたところ、お婆さんが自動販売機の前で少し困ったような表情をして立っていました。止まって様子を見てみたら、その方はお札を入れる場所が分からず困っているようでした。一瞬戸惑いましたが、その日はとても暑く、お婆さんが倒れてしまう大変だと思い、思い切つて声を掛けてみました。するとお婆さんは凄く喜んで下さり、私も晴れ晴れとした気持ちで家に帰ることができました。私はこの経験から、相手の気持ちや状況を考えて行動すると自分も相手も良い気持ちになることを学びました。

今、私の周りでは、ナイフで刺すような鋭い言葉が飛び交っています。私はそのような言動を無くすことも平和への第一歩だと考えます。思いやりの気持ちを持つて行動し、身近な所から平和を創り上げていきたいです。

安心できる町にするために

《中学生の部 入選》

安西中学校二年 山岡 柚月果

私は、私たちの住んでいる広島市が将来おたがいに助け合ってすべての人が安心して暮らせる町になったらいいと思います。

そのような町にするために、日ごろから地域の人とあいさつしたり、助けあつて暮らしたりすることが大切です。そう考えた理由は、私の住んでいる地域に認知症のおばあちゃんがいるけどみんなが見守っているからおばあちゃんは安心して暮らせていると、母から聞いたからです。みんなでおばあちゃんを見守って、助け合えているのは、日頃のあいさつや、地域の活動などで、信頼しあえる関係を築くことができるからです。また、小さな子供がいる人も安心して子供を外で遊ばせることができる、不安なことも共有できたりして、すべての人が安心して暮らせることにつながると思います。あいさつなら私たちのような、中学生にもできます。小さなことですがみんなで取り組んでいきたいです。

おたがいに助け合って、すべての人が安心して暮らせる町を、私たちで協力して作っていききたいです。

ジェンダー不平等のないまちへ

《中学生の部 入選》

江波中学校二年 生徒

今話題になっているSDGs。そのゴールの一つに「ジェンダー平等を実現しよう」というものがあります。世界には「女性」だからという理由で差別されている人がたくさんいます。日本でも、政治や経済の面でジェンダーの不平等が生じています。

私はこの事実を知り、女性や女子も自由に学校に通えて、仕事を選べる未来にしたいと考えました。そして、未来の広島市を、女性も活躍できるまちにしたいです。

そのために、女性が活躍しやすい環境を作ることが大切だと思います。例えば、保育園の数を増やし、女性も働きやすくなり、女性議員を増やすために、積極的に選挙への参加を呼びかけたりします。また、個人で取り組めることとして、家事を家族みんなで平等に分担することなどができると思います。そして、一人ひとりのジェンダー平等に対する意識を高めるため、家族や友達とジェンダー平等について話していきたいです。このように取り組むことで、ジェンダーの不平等がない広島市をつくっていきけると思います。

つなげよう！コミュニケーション

《中学生の部 入選》

牛田中学校二年 沖井 結朱

私は広島市民みんなで支え合いながら成長する広島をつくりたいです。なぜなら支え合いながら成長すれば地域の人との交流が広がり、地域が一体化し安全で明るい町をつくることができると思ったからです。またこれは、SDGsのキーワードでもある「誰ひとり取り残さない」にもつながるのではないのでしょうか。

実際に私の住んでいる牛田の町では登下校中に「おはよう」や「おかえり」と声をかけてくれたり、近所の人に「大きくなったね」と言われる事もあります。「大きくなったね」と言われた時はずっと見ててくれたんだ！と思いますごくうれしい気持ちになります。今では少し仲良くなりお菓子をもらうこともあります。

このようにまずは近所そして地域、広島へとコミュニケーションを広げていけば誰ひとり取り残さずみんなで支え合いながら成長する事ができると思います。みなさんもコミュニケーションをつくる一人目となってみませんか。

挨拶で過ごしやすいまちへ

《中学生の部 入選》

宇品中学校三年 島尾 睦季

私は、将来広島市が挨拶が活発なまちになったら良いと思う。

挨拶をするとならば防犯になる。なぜなら、挨拶をすることによって近所にどんな人が住んでいるのか大体把握することができ、見たことのない人が居たら怪しんで身構えることができるからだ。そして、もしも犯罪を犯そうとしている人が居たときに挨拶をされると犯人は顔がばれてしまうので思いとどまり、犯罪を止めることができるかもしれないからだ。

また、挨拶は簡単に近所の人達とコミュニケーションがとれる。日々コミュニケーションが取れていけば、災害時に近所の人達で困ったことがあったときに助け合い、乗り越えることができる。

このように挨拶は、安心安全で過ごしやすいまちにしていくなために大切な事だと思う。地域で協力して自分達で過ごしやすいまちをつくっていくために全員が意識して取り組むべきだ。まずは勇気を出して「こんにちは。」と言うことが、過ごしやすいまちへの第一歩だと思う。

魔法の言葉で笑顔に

《中学生の部 入選》

長東中学校三年 吉田 結愛

私は広島が挨拶で今より明るく、笑顔のあふれる町になると思います。

「挨拶」という漢字の意味を知っていますか。まず、「挨」という字には押すという意味があり、「拶」という字には迫るという意味があります。押すと迫るだけ聞くとあまり良いイメージを持ちませんが、「近づく」と考えてみるとどうでしょう。今、新型コロナウイルスの影響で人と人との会話が減り、つながりも少なくなってきたいます。そこで、挨拶という一つのつながりで心と心が「近づく」ことができると思います。

挨拶をすればお互いに笑顔にもなれます。

「おはようございます。」

「こんにちは。」

「こんばんは。」

たった一言なのに、してもらえるだけでこんなに安心できる言葉はないと思います。そんな挨拶を私は魔法の言葉だと思っています。

これから広島が魔法の言葉で、今よりもっと安心安全で、人と人との心の距離が近づいた町になってほしいです。

皆で未来の広島を

《中学生の部 入選》

戸坂中学校三年 藤井 唯果

私は、みんながいきいきと、気持ちよく暮らすことができる、そんな広島になったらいいと思います。そのためには、挨拶が大切だと私は考えます。

みなさんは、通勤、通学をするとき、挨拶をしていますか。私は、通りすぎる人に自分から挨拶をするように心がけています。そのきっかけは、通学するときによく見かける、盲導犬を連れた男性の挨拶でした。その男性はいつも、「おはようございます。通ります。」と大きな声で挨拶をしながら歩いていました。勇気がいりましたが、私は、「おはようございます。」と言いました。すると、「挨拶ありがとうございます。」と、明るい挨拶を返してくださいました。私は、とても爽やかな気持ちになりました。そして、挨拶をする人が増えれば、地域の交流が深まって、皆がいきいきと、気持ちよく暮らすことができるのではないかと思います。そんな広島を、皆でつくりあげていきませんか。

変わろう、変えよう、広島を

《中学生の部 入選》

二葉中学校三年 山根 彩由奈

私の母は、LGBTの研修会で「左利きの人口と、同じくらいの人数が該当する。」と知り、非常に驚いたそうだ。この話を母から聞いて、私ももっとLGBTについて知りたいと思うようになった。調べてみて、最も衝撃を受けたのは、当事者全体の約六割が学校生活においていじめ被害を経験していることだ。少し他人と好みが違うだけでいじめられてしまうことがあるのである。

だから私は、十年後の広島が性差別がゼロになって欲しいと思う。

そのためには、LGBTとは何かを学び、考える場が必要だ。例えば、学校の授業で取り上げる。しかし、理解は深まるが、偏見が生まれ、差別に繋がってしまうかもしれない、それを防ぐために、多角的視点を持つことが大切だ。

今、私にできることは、自分の常識と違うからと否定せず、一つの考え方として捉えることだ。広島が誰にとっても過ごしやすいまちになって欲しい。

緑あふれる豊かな広島

《中学生の部 入選》

二葉中学校三年 森田 彩花

私は、広島が緑があふれるまちになってほしいと思う。

なぜなら、緑の多い美しい広島こそ、多くの人に訪れてほしい広島だと思うからだ。広島には、山や川など多くの自然がある。しかし、広島を中心部では、多くの建物によって緑が減ってきている。

私が祖父母と広島を中心部を訪れた際に、高い建物が並んでいた。私にとっては、いつも見ている景色だった。だが、祖父母は、「広島も変わったな。」と言った。私は発展したという意味があると思ったが、昔はもつと美しかったという意味もあると感じた。この言葉を聞いて、私は緑を減らしてまで広島を発展させることが本当に良いことだろうかと考えた。

美しく豊かな自然があふれる緑が広島の魅力の一つではないだろうか。まずは、私たち一人一人が身近な自然や緑を大切にしていくべきだと思う。そうすることで、少しでも緑が増え、将来は緑があふれる広島になってほしいと思う。

広島から世界に

《中学生の部 入選》

大塚中学校三年 栗畑 花

私は、未来の広島が世界に平和について発信できるようになっていてほしいです。なぜなら、広島は原子爆弾を落とされ、戦争について一番よく知っていると聞いたからです。しかし、今の広島は被爆者が少なくなり、これからの世代に自分の体験を話していける人がいません。そして、いまだに学校でのいじめなどがなくなっていない。そんな中、私は広島が世界に平和を発信し、誰もが過ごしやすいようにしていきたいです。そのために、私がしていかないとと思うことは、被爆者の話を聞きこれからの世代に「戦争は絶対にしてはいけない」と伝えていくことです。広島が十年後二十年後になっても平和についての意識をもち、それを世界に伝え、この世から核兵器がなくなっていけばいいと思いました。そして、私からお互いを理解しその場にしやすいような環境をつくっていききたいです。

広島が十年後二十年後になって、平和をよく理解し世界に伝えていくために、自分も行動を起こしていきたいと思います。